



安全データシート

Copyright, 2021, 3M Company. All right reserved. 本情報は、3M社の製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製および／またはダウンロードをする場合には、以下の条件をお守り下さい。（１）3M社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。（２）本情報を営利目的で転売または配布をしないで下さい。

SDS番号	35-0159-0	版	3.01
発行日	2021/01/24	前発行日	2016/07/29

この安全データシートはJIS Z7253:2019に対応しています。

化学品及び会社情報

化学品の名称

3M™ 樹脂パテ 番号 8120

会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	オート・アフターマーケット 製品事業部技術部
電話番号	042-779-2185

本製品は個々に包装された複数の構成部品からなるキット製品である。SDSには個々の構成部品のSDSが含まれる。個別のSDSを本表紙から分離しないこと。 この製品を構成する製品のSDS番号は：

34-5701-7, 35-0000-6

輸送上の注意

取り扱い及び保管上の注意の項の記載による他、船舶安全法などの法令の定めるところに従う。

セクション1：所在地 情報修正。
セクション1：担当部門名 情報修正。
セクション1：ストック番号情報 情報の削除。
セクション1：製品名 情報修正。
セクション1 4：輸送上の注意の標準フレーズ 情報修正。
セクション1 6：UK放棄声明 情報の削除。
セクション1 6：Webアドレス 情報修正。

免責事項：この安全データシートの情報は、発行時において正確であると信じられるものです。当社は、法的な要求事項を除き、安全データシートの記載事項について、製品の使用に伴う損失や災害等を補償するものではありません、本安全データシートの記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合わせての使用では効力を持ちません。したがって、製品が使用目的に合致しているかについては、お客様ご自身でご確

認ください。

3MジャパングループのSDSは日本のウェブサイトから入手できます。



安全データシート

Copyright, 2023, 3M Company. All right reserved. 本情報は、3M社の製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製および／またはダウンロードをする場合には、以下の条件をお守り下さい。（１）3M社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。（２）本情報を営利目的で転売または配布をしないで下さい。

SDS番号	35-0000-6	版	4.00
発行日	2023/03/15	前発行日	2021/02/11

この安全データシートはJIS Z7253:2019に対応しています。

1. 化学品及び会社情報

1.1. 化学品の名称

3MTM 樹脂パテ一番 8120 硬化剤

1.2. 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途

自動車

1.3. 会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	オート・アフターマーケット 製品事業部技術部
電話番号	042-779-2185

2. 危険有害性の要約

GHS分類

有機過酸化物：タイプE

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：区分2A

皮膚感作性：区分1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：区分3

水生環境有害性 短期（急性）：区分1

水生環境有害性 長期（慢性）：区分3

GHSラベル要素

注意喚起語

警告

シンボル

炎 感嘆符 環境

ピクトグラム



危険有害性情報

H242	熱すると火災のおそれ
H319	強い眼刺激
H317	アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H335	呼吸器への刺激のおそれ
H400	水生生物に非常に強い毒性
H412	長期継続的影響により水生生物に有害

注意書き

安全対策

P210A	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P240B	容器を接地しアースをとること。
P234A	他の容器に移し替えないこと。
P235	涼しいところに置くこと。
P261	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
P280B	保護手袋／保護眼鏡／保護面を着用すること。
P264	取扱後はよく洗うこと。
P272	汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273	環境への放出を避けること。

応急措置

P304 + P340	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい状態を確保すること。
P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313	眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
P302 + P352	皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
P333 + P313	皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。
P362 + P364	汚染された衣類を脱ぐこと。再利用する場合は洗うこと。
P321	特別な処置が必要である（このラベルの説明を見よ）。
P312	気分が悪いときは医師に連絡すること。
P391	漏出物を回収すること。

保管

P410	日光から遮断すること。
P403	換気の良い場所で保管すること。
P403 + P233	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
P411	5℃以下の温度で保管すること。
P405	施錠して保管すること。

P420A 別々に保管する。

廃棄
P501 内容物／容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

この製品は混合物です。

成分	CAS番号	重量%
2, 2, 4-トリメチル-1, 3-ペンタンジオールジイソブチレート	6846-50-0	10 - 20
アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)	103-23-1	10 - 15
リン酸トリエチル	78-40-0	10 - 15
水素添加ヒマシ油	8001-78-3	1.0 - 5.0
水	7732-18-5	1.0 - 5.0
過酸化ベンゾイル	94-36-0	49

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合

新鮮な空気の環境に移動させる。気分がすぐれない場合は医療機関を受診する。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水で15分以上洗浄する。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。症状が続く場合は医療機関を受診する。

眼に入った場合

直ちに多量の水で洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。すぎ続ける。直ちに医療機関を受診する。

飲み込んだ場合

口をゆすぐ。気分が悪い時は医療機関を受診する。

予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

重大な症状や影響はない。毒物学的影響に関する情報はセクション11を参照する。

応急措置を要する者の保護に必要な注意事項

適用しない。

5. 火災時の措置

消火剤

火災の場合： 消火するために水あるいは泡消火薬剤などの、通常の燃焼物質用の消火薬剤を使用すること。

使ってはならない消火剤

情報なし。

特有の危険有害性

本製品では予想されない。

消火作業者の保護

消火作業者への特別な防御措置は予想されない。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置**

区域から退避させること。 熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。禁煙。 火花を発生させない工具を使用すること。 新鮮な空気ですその場所を換気する。 大量に漏洩した場合、あるいは狭小な場所で漏洩した場合は、安全衛生手順にしたがって、蒸気の拡散、排出のための強制換気を行う。 警告！モーターは着火源になる。漏洩個所に発生している引火性のガスや蒸気の着火源となり、燃焼・爆発を起こす可能性がある。 物理的有害性、健康有害性、呼吸保護、換気、個人防護については本SDSの他の項目を参照。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。 大量の場合には、下水設備や水施設に流入するのを防止する為に、排水溝にカバーし、土手をつくる。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

ベントナイト、バーミキュライトあるいは市販の無機吸収剤を用い、漏洩物の周囲から内側に向けて覆う。漏洩箇所が乾燥するまで十分に吸収剤を混ぜ合わせる。 吸収剤を加えても物理的危険性や健康および環境影響に関する有害性を有することに留意する。 出来る限り多くの漏洩物を防爆仕様の道具を使って回収する。 密閉容器に収納する。 有資格者・専門家が選択した適切な溶剤を使用して残留物を清掃する。新鮮な空気に換気する。溶剤のラベルとSDSを参照し、安全な取り扱い方法に従う。 容器を密封する。 回収した物質は、国内外の法令や規則にしたがって、できるだけ早く廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意**取扱い**

熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。禁煙。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱後はよく洗うこと。 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 環境への放出を避けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。 爆発の危険となる可能性がある水素の形成を避けるため、反応性の金属（例えば、アルミニウム、亜鉛等）から遠ざける。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 日光から遮断すること。 熱から離して保管する。 32℃を超える温度で貯蔵しない。保冷 他の容器に移し替えないこと。 酸から離して保管する。 強塩基から離して保管する。 他の物質から離して保管すること。 衣類、燃焼性のある物質から遠ざける。 アミンから離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置**管理項目****許容濃度及び管理濃度**

セクション3に表示されている成分名が、以下の表に見当たらない場合は、当該成分についての適切な作業時の許容濃度または管理濃度がないことを示している。

成分	CAS番号	政府機関	許容濃度または管理濃度	備考
リン酸トリエチル	78-40-0	AIHA	TWA:7.45 mg/m ³ (1 ppm)	
過酸化ベンゾイル	94-36-0	ACGIH	TWA:5mg/m ³	A4: ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質
過酸化ベンゾイル	94-36-0	JSOH OELs	限界値は未設定	皮膚感作性

ACGIH: American Conference of Governmental Industrial Hygienists

AIHA: American Industrial Hygiene Association

ISHL: 労働安全衛生法作業環境評価基準

JSOH OELs: 日本産業衛生学会許容濃度

TWA: 時間加重平均値

STEL: 短時間ばく露限界値

ppm: 百万分率

mg/m³: ミリグラム/立方メートル

CEIL: 天井値

ばく露防止策

設備対策

熱硬化処理を行う場合は適切な局所排気装置を使用する。 切削、研削、研磨、旋削時に適切な局排換気を行う。 空気中の有害物質をそれぞれの許容濃度以下に制御し、粉じん、フェューム、ガス、ミスト、スプレーをコントロールするためにも、一般的な希釈換気あるいは局排換気を行う。換気が適切に実施できない場合は、呼吸保護具を使用する。

保護具

眼の保護具

ばく露評価結果に準じた眼・顔の保護具を選択・使用する。下記の眼・顔の保護具を推奨する。

間接式換気ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

ばく露評価に準じた皮膚接触を防止するために、関連した法令で認められた保護手袋・保護衣を選択・使用する。 注: 保護性を高めるために樹脂ラミネートされた手袋にニトリルゴム製の手袋を重ねてもよい。

推奨される手袋の材質: 樹脂ラミネート。

スプレーや、ハネの多い作業など、ばく露の可能性が高い場合には、つなぎ服などの保護衣を使用する。 ばく露評価に基づき、適切な保護具を着用する。保護衣の材質として次のものを推奨する。 ポリマーラミネート製エプロン

呼吸用保護具

ばく露評価によって保護マスクが必要と判断される場合には、適切なものを使用する。ばく露評価結果に基づいて以下のものから保護マスクを選択する:

半面形もしくは全面形のろ過材付き有機ガス用防毒マスク

特殊な利用に際して、マスクの適合性に疑問があれば、保護マスクのメーカーに相談する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理・化学的性質

外観	液体
物理的状态:	ペースト
色	青色
臭い	刺激性
臭いの閾値	データはない。
pH	適用しない
融点・凝固点	適用しない
沸点, 初留点及び沸騰範囲	データはない。
引火点	>=100 °C [試験方法: クローズドカップ法]
蒸発速度	データはない。
引火性 (固体、ガス)	適用しない
燃焼点 (下限)	適用しない
燃焼点 (上限)	適用しない
蒸気圧	データはない。
蒸気密度/相対蒸気密度	データはない。
密度	データはない。
比重	データはない。
溶解度	データはない。
溶解度 (水以外)	データはない。
n-オクタノール/水分分配係数	データはない。
発火点	データはない。
分解温度	データはない。
粘度/動粘度	データはない。
揮発性有機化合物	適用しない
揮発分	適用しない
水と規制除外の溶剤を除いた揮発性有機化合物 (JIS-GHSの要求項目ではない)	適用しない

ナノパーティクル

この製品はナノパーティクルを含有しない。

10. 安定性及び反応性

反応性

この物質は、特殊条件下では薬品と反応する可能性がある。このセクションの他の項目を参照する。

化学的安定性

安定。

危険有害反応の可能性

有害な重合反応は起こらない。

避けるべき条件

熱。
火花ないし炎

混触危険物質

アミン類
金属粉末
反応性金属
還元剤
強酸
強塩基

危険有害な分解物

物質

一酸化炭素
二酸化炭素

条件

特段の規定はない。
特段の規定はない。

11. 有害性情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しない場合があります。また、成分の含有量が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、含有成分の毒性情報が、製品の区分、ばく露時の兆候や症状に一致しないことがあります。

毒性学的影響に関する情報

ばく露による症状

組成の試験結果や情報より、下記の健康影響が考えられる。

吸入した場合

気道刺激：咳、くしゃみ、鼻水、頭痛、鼻と喉の痛みなどの症状。硬化時に発生する蒸気は呼吸器を刺激する可能性がある。症状として咳、くしゃみ、頭痛、しわがれ声、鼻および喉の痛みが現れる。切断、研磨、機械加工によって発生する粉じんは呼吸器系を刺激する。症状は咳、くしゃみ、鼻水、しわがれ声、喘鳴、呼吸困難、鼻と喉の痛み、吐血など。

皮膚に付着した場合

軽度の皮膚刺激：局所的な発赤、腫脹、かゆみ、乾燥などの症状。皮膚過敏症のヒトにおける非光感作性アレルギー皮膚反応：発赤、腫脹、水疱形成、かゆみなどの症状。

眼に入った場合

眼への激しい刺激：発赤、腫脹、痛み、催涙、角膜の曇り、視力障害などの症状。硬化時に放出される蒸気は眼を刺激するおそれがある。症状は発赤、浮腫、痛み、涙及び眼のくもりあるいはかすみ目。切断、研磨又は機械加工によって発生する粉じんは眼を刺激する。症状は発赤、腫脹、痛み、催涙及び視力低下など。

飲み込んだ場合

胃腸への刺激：腹痛、胃痛、吐き気、嘔吐、下痢などの症状。

毒性データ

セクション3に開示されている化学成分で以下に情報が無い場合は、そのエンドポイントに対して利用できるデ

ータが無い、分類するに十分なデータが無い場合があります。

急性毒性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
製品全体	吸入－蒸気 (4 時間)		利用できるデータが無い：ATEで計算。50 mg/l
製品全体	経口摂取		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
過酸化ベンゾイル	皮膚		LD50 推定値 2,000 - 5,000 mg/kg
過酸化ベンゾイル	吸入－粉塵 /ミスト (4 時間)	ラット	LC50 > 24.3 mg/l
過酸化ベンゾイル	経口摂取	ラット	LD50 > 5,000 mg/kg
2, 2, 4-トリメチル-1, 3-ペンタンジオールジイソブチレート	皮膚	モルモット	LD50 > 18,800 mg/kg
2, 2, 4-トリメチル-1, 3-ペンタンジオールジイソブチレート	吸入－粉塵 /ミスト (4 時間)	ラット	LC50 > 8 mg/l
2, 2, 4-トリメチル-1, 3-ペンタンジオールジイソブチレート	経口摂取	ラット	LD50 > 3,200 mg/kg
アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)	皮膚	ウサギ	LD50 8,410 mg/kg
アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)	経口摂取	ラット	LD50 5,600 mg/kg
リン酸トリエチル	皮膚	モルモット	LD50 > 21,400 mg/kg
リン酸トリエチル	吸入－粉塵 /ミスト (4 時間)	ラット	LC50 > 8.8 mg/l
リン酸トリエチル	経口摂取	ラット	LD50 1,131 mg/kg
水素添加ヒマシ油	皮膚		LD50 推定値 > 5,000 mg/kg
水素添加ヒマシ油	経口摂取	ラット	LD50 > 10,000 mg/kg

ATE=推定急性毒性

皮膚腐食性／刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
過酸化ベンゾイル	ウサギ	わずかな刺激
リン酸トリエチル	ウサギ	刺激性なし
水素添加ヒマシ油	マウス	刺激性なし

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
過酸化ベンゾイル	ウサギ	激しい刺激
リン酸トリエチル	ウサギ	激しい刺激
水素添加ヒマシ油	ウサギ	軽度の刺激

呼吸器感作性または皮膚感作性

皮膚感作性

名称	生物種	値又は判定結果
過酸化ベンゾイル	モルモット	感作性あり
リン酸トリエチル	マウス	区分に該当しない。

呼吸器感受性

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

生殖細胞変異原性

名称	経路	値又は判定結果
過酸化ベンゾイル	In vitro	変異原性なし
過酸化ベンゾイル	In vivo	変異原性なし
水素添加ヒマシ油	In vitro	変異原性なし

発がん性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
過酸化ベンゾイル	経口摂取	多種類の動物種	発がん性なし
過酸化ベンゾイル	皮膚	マウス	陽性データはあるが、分類には不十分。

生殖毒性

生殖発生影響

名称	経路	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
過酸化ベンゾイル	経口摂取	雌について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 1,000 mg/kg/日	交配前および妊娠中。
過酸化ベンゾイル	経口摂取	雄について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 500 mg/kg/日	交配前および妊娠中。
過酸化ベンゾイル	経口摂取	発生毒性区分に該当しない。	ラット	NOAEL 500 mg/kg/日	交配前および妊娠中。
2, 2, 4-トリメチル-1, 3-ペンタンジオールジイソブチレート	経口摂取	発生機能に有毒	ウサギ	NOAEL 300 mg/kg/日	妊娠期間中

標的臓器

特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
リン酸トリエチル	吸入した場合	呼吸器への刺激	陽性データはあるが、分類には不十分。	類似健康有害性	NOAEL 非該当	

特定標的臓器毒性、反復ばく露

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

誤えん有害性

セクション 3 に開示されている化学成分に対しては、利用できるデータが無いか、分類するに十分なデータが無い。

製品及び成分に関する追加の毒性情報が必要な場合には、本SDSの 1 ページに記載した住所、電話番号にご連絡ください。

12. 環境影響情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しないことがあります。 セクション2の分類に関する追加情報が必要な場合は、弊社にお問い合わせください。また、成分の環境中での運命及び有害性は、成分の含有が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、この項の内容と一致しないことがあります。

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）

GHS 水生環境有害性（急性）区分1：水生生物に非常に強い毒性。

水生環境有害性 長期（慢性）

GHS 水生環境有害性 長期（慢性）区分3：長期継続的影響によって水生生物に有害。

製品での試験データは無い。

材料	CAS番号	生物種	種類	ばく露	テストエンドポイント	試験結果
2, 2, 4-トリメチルー 1, 3-ペン タンジオール ジイソブチレ ート	6846-50-0	緑藻類	実験	72 時間	EbC50	8 mg/l
2, 2, 4-トリメチルー 1, 3-ペン タンジオール ジイソブチレ ート	6846-50-0	メダカ	実験	96 時間	LC50	18 mg/l
2, 2, 4-トリメチルー 1, 3-ペン タンジオール ジイソブチレ ート	6846-50-0	緑藻類	実験	72 時間	NOEC	5.3 mg/l
2, 2, 4-トリメチルー 1, 3-ペン タンジオール ジイソブチレ ート	6846-50-0	ミジンコ	実験	21 日	NOEC	0.7 mg/l
アジピン酸ビス（2-エチルヘキシル）	103-23-1	液状化	実験	3 時間	EC50	>350 mg/l
アジピン酸ビス（2-エチルヘキシル）	103-23-1	ブルーギル	実験	96 時間	LC50	>100 mg/l
アジピン酸ビ	103-23-1	緑藻類	実験	72 時間	EbC50	>500 mg/l

ス (2-エチルヘキシル)						
アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)	103-23-1	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	>500 mg/l
アジピン酸ビス (2-エチルヘキシル)	103-23-1	ミジンコ	実験	21 日	NOEC	>100 mg/l
リン酸トリエチル	78-40-0	液状化	実験	5 時間	EC50	5,000 mg/l
リン酸トリエチル	78-40-0	バクテリア	実験	30 分	EC10	2,985 mg/l
リン酸トリエチル	78-40-0	ファットヘッドミノウ (魚)	実験	96 時間	LC50	>100 mg/l
リン酸トリエチル	78-40-0	緑藻類	実験	72 時間	EbC50	900 mg/l
リン酸トリエチル	78-40-0	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	350 mg/l
リン酸トリエチル	78-40-0	ミジンコ	実験	21 日	NOEC	31.6 mg/l
水素添加ヒマシ油	8001-78-3	バクテリア	実験	16 時間	NOEC	10,000 mg/l
水素添加ヒマシ油	8001-78-3	ゼブラフィッシュ	実験	96 時間	LC50	>100 mg/l
過酸化ベンゾイル	94-36-0	緑藻類	実験	72 時間	EC50	0.071 mg/l
過酸化ベンゾイル	94-36-0	ニジマス	実験	96 時間	LC50	0.06 mg/l
過酸化ベンゾイル	94-36-0	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	0.11 mg/l
過酸化ベンゾイル	94-36-0	緑藻類	実験	72 時間	NOEC	0.02 mg/l
過酸化ベンゾイル	94-36-0	ミジンコ	実験	21 日	EC10	0.001 mg/l
過酸化ベンゾイル	94-36-0	液状化	実験	30 分	EC50	35 mg/l
過酸化ベンゾイル	94-36-0	シマミミズ	実験	14 日	LC50	>1,000 mg/kg (乾燥重量)
過酸化ベンゾイル	94-36-0	土壌微生物	実験	28 日	EC50	2,300 mg/kg (乾燥重量)

残留性・分解性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
2, 2, 4-トリメチル-1, 3-ペン	6846-50-0	実験 生分解性	28 日	二酸化炭素の発生	70.73 CO2発生量/理論CO2発生量 (10-	OECD 301B - 修正シェツルム試験又は二酸化炭素

タンジオール ジイソブチレ ート					dayウィンド ウの基準を満 たさない)	
アジピン酸ビス (2-エチル ヘキシル)	103-23-1	実験 生分解 性	28 日	生物学的酸素 要求量	90 %BOD/ThOD	OECD 301F
リン酸トリエ チル	78-40-0	実験 生分解 性	28 日	DOC (溶存有 機炭素) 残留 量	97 DOC除去%	835.3200 Zahn- Wellens
リン酸トリエ チル	78-40-0	実験 生分解 性	28 日	生物学的酸素 要求量	0 %BOD/ThOD	OECD 301C-MITI (1)
リン酸トリエ チル	78-40-0	実験 加水分 解		加水分解性半 減期 (pH7)	>1 年 (t 1/2)	EC C.Hydrolysis at pH
水素添加ヒマ シ油	8001-78-3	実験 生分解 性	28 日	生物学的酸素 要求量	64 %BOD/ThOD	
過酸化ベンゾ イル	94-36-0	実験 生分解 性	28 日	生物学的酸素 要求量	71 %BOD/ThOD	OECD 301D - クロー ズドボトル法
過酸化ベンゾ イル	94-36-0	実験 加水分 解		加水分解性半 減期	5.2 時間 (t 1/2)	OECD 111 pHに応じた 加水分解

生体蓄積性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
2, 2, 4- トリメチルー 1, 3-ペン タンジオール ジイソブチレ ート	6846-50-0	実験 BAF - 魚	42 日	生物濃縮係数	≤31	OECD305-生体濃縮度 試験
アジピン酸ビス (2-エチル ヘキシル)	103-23-1	実験 BCF - 魚	28 日	生物濃縮係数	27	
アジピン酸ビス (2-エチル ヘキシル)	103-23-1	実験 生態濃 縮		オクタノール /水 分配係 数	8.94	OECD 117、log Kow (オクタノール/水分 配係数)、高速液体 クロマトグラフィー
リン酸トリエ チル	78-40-0	実験 BCF - 魚	42 日	生物濃縮係数	<1.3	OECD305-生体濃縮度 試験
水素添加ヒマ シ油	8001-78-3	推定値 生態 濃縮		生物濃縮係数	7.4	
過酸化ベンゾ イル	94-36-0	実験 生態濃 縮		オクタノール /水 分配係 数	3.2	OECD 117、log Kow (オクタノール/水分 配係数)、高速液体 クロマトグラフィー

土壌中の移動性

データはない。

オゾン層への有害性
データはない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法
関係法令に従って、産業廃棄物として自社で処分するか産業廃棄物処理業者に委託して処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号及び品名： 3 1 0 8 有機過酸化物 タイプE、固体

輸送分類（IMO）：5.2 有機過酸化物

輸送分類（IATA）：5.2 有機過酸化物

国内規制がある場合の規制情報
取り扱い及び保管上の注意の項の記載による他、船舶安全法などの法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

国内法規制及び関連情報

日本国内法規制（主な適用法令）

労働安全衛生法：危険性又は有害性等を調査(リスクアセスメント)すべき物（法第 57 条の3）
労働安全衛生法：施行令 1 8 条の2 名称等を通知すべき有害物
労働安全衛生法：施行令 1 8 条有害物質（表示物質）
消防法：指定可燃物（可燃性固体類）
船舶安全法、航空法：酸化性物質類
海洋汚染防止法：環境有害物質

主な法規制物質

労働安全衛生法：通知・リスクアセスメント・表示義務対象物質

成分	法律又は政令名称	2024年3月31日まで	2024年4月1日以降
過酸化ベンゾイル	ジベンゾイルペルオキシド	該当	該当

16. その他の情報

改訂情報
セクション 1：製品用途 情報の追加.
セクション 2：環境影響ステートメント 情報修正.
セクション 2：GHS分類 情報修正.
セクション 2：健康有害性 情報修正.
セクション 2：物理化学的危険性のステートメント 情報修正.
セクション 2：注意書き - 安全対策 情報修正.
セクション 2：注意書き - 応急措置 情報修正.

セクション 3 : 成分表 情報修正.
セクション 5 : 火災時情報 (消火剤) 情報修正.
セクション 6 : 事故漏出時の人体に対する注意事項 情報修正.
セクション 7 : 貯蔵情報 情報修正.
セクション 7 : 取り扱い時の安全注意喚起情報 情報修正.
セクション 8 : mg/m³ 記号 情報の追加.
セクション 8 : 作業環境許容値 情報修正.
セクション 8 : 保護具 - 眼 情報修正.
セクション 8 : 保護具 - 吸入 情報修正.
セクション 8 : ppm 記号 情報の追加.
セクション 8 : 呼吸器保護 - 推奨する呼吸保護具の情報 情報修正.
セクション 9 : 融点/凝固点 情報修正.
セクション 9 : 燃焼性 (固体、ガス) 情報 情報修正.
セクション 9 : 燃焼点 (下限) 情報 情報修正.
セクション 9 : 燃焼点 (上限) 情報 情報修正.
セクション 9 : 揮発分 情報修正.
セクション 9 : pH 情報 情報修正.
セクション 9 : 水と規制除外の溶剤を除いた揮発性有機化合物 情報修正.
セクション 9 : 揮発性有機化合物 情報修正.
セクション 11 : 生殖毒性の表 情報修正.
セクション 11 : 皮膚感作性の表 情報修正.
セクション 12 : 水生生物への慢性毒性情報 情報修正.
セクション 12 : 成分生態毒性情報 情報修正.
セクション 12 : 残留性および分解性の情報 情報修正.
セクション 12 : 生態濃縮性情報 情報修正.
セクション 15 : 労働安全衛生法の表 情報の追加.
セクション 15 : 法規名 - 表 情報の削除.
セクション 15 : 適用法規のステートメント 情報修正.

免責事項: この安全データシート (SDS) の情報は、発行時における当社の知見に基づき正確であると考えていますが、当社は、その使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受けるものではありません。

(法令で要求される場合を除く) 本 SDS の記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合わせての使用では効力を持ちません。これらの理由から、お客様がご自身の用途に製品が適合しているかどうかをご自身で評価することが重要です。加えて、本安全データシートは安全衛生情報もお伝えしております。日本国へ本製品を輸入されるお客様は、製品の登録・届出、物質量の監視、想定される物質の登録・届出を含む（これらに限定されるものではありません）適用される全ての法的要求について責任を負います。

3M ジャパングループの SDS は日本のウェブサイトから入手できます。



安全データシート

Copyright, 2023, 3M Company. All right reserved. 本情報は、3M社の製品を適切にご使用頂くために作成したものです。複製および／またはダウンロードをする場合には、以下の条件をお守り下さい。（１）3M社から書面による事前承認を得ることなく情報を変更したり、一部を抜粋して使用しないで下さい。（２）本情報を営利目的で転売または配布をしないで下さい。

SDS番号	34-5701-7	版	5.00
発行日	2023/09/27	前発行日	2021/10/19

この安全データシートはJIS Z7253:2019に対応しています。

1. 化学品及び会社情報

1.1. 化学品の名称

3MTM 樹脂パテ 8120 主剤

3M スtockナンバー

LZ-J100-2984-1

1.2. 推奨用途及び使用上の制限

推奨用途

自動車

1.3. 会社情報

供給者	スリーエム ジャパン株式会社
所在地	本社 東京都品川区北品川6-7-29
担当部門	オート・アフターマーケット 製品事業部技術部
電話番号	042-779-2185

2. 危険有害性の要約

GHS分類

引火性液体： 区分 3

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： 区分 2 B

発がん性： 区分 2

特定標的臓器毒性（単回ばく露）： 区分 1

特定標的臓器毒性（反復ばく露）： 区分 1

水生環境有害性 短期（急性）： 区分 3

GHSラベル要素

注意喚起語

危険

シンボル

炎 健康有害性

ピクトグラム



危険有害性情報

H226	引火性液体及び蒸気
H320	眼刺激
H351	発がんのおそれの疑い
H370	臓器の障害： 肝臓。 感覚器。
H372	長期あるいは反復ばく露による臓器の障害： 呼吸器 感覚器。
H373	長期ばく露又は反復ばく露による臓器障害のおそれ： 肝臓。
H402	水生生物に有害

注意書き

安全対策

P201	使用前に取扱説明書を入手すること。
P202	安全上の注意事項をすべて読んで、理解するまで取り扱わないこと。
P210A	熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。
P240B	容器を接地しアースをとること。
P242A	火花を発生させない工具を使用すること。
P243A	静電気放電に対する措置を講ずること。
P241	防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
P260	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
P284A	換気が不十分な場合呼吸用保護具を着用すること。
P280E	保護手袋を着用すること。
P270	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
P264	取扱後はよく洗うこと。
P273	環境への放出を避けること。

応急措置

P303 + P361 + P353A	皮膚（または髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗うこと。
---------------------	--

P305 + P351 + P338	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P337 + P313	眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。
P308 + P311	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡する事。
P370 + P378G	火災の場合：消火するために 粉末消火剤または炭酸ガスなどの可燃性液体および可燃性固体用消火薬剤を使用すること。

保管

P403 + P235	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
P405	施錠して保管すること。

廃棄

P501	内容物／容器を国際、国、都道府県、市町村の規則に従って廃棄すること。
------	------------------------------------

その他の有害性

製品の粘度により、誤えん有害性の区分は適用しない。

3. 組成及び成分情報

この製品は混合物です。

成分	CAS番号	重量%
タルク	14807-96-6	45 - 55
不飽和ポリエステル樹脂	営業秘密	25 - 35
スチレンモノマー	100-42-5	17
酸化チタン(IV)	13463-67-7	2.0
キシレン	1330-20-7	0.30
エチルベンゼン	100-41-4	0.30

4. 応急措置

応急措置**吸入した場合**

新鮮な空気的环境中に移動させる。気分がすぐれない場合は医療機関を受診する。

皮膚に付着した場合

直ちに多量の水で15分以上洗浄する。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。症状が続く場合は医療機関を受診する。

眼に入った場合

直ちに多量の水で15分以上洗浄する。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医療機関を受診する。

飲み込んだ場合

口をゆすぐ。気分が悪い時は医療機関を受診する。

予想できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

標的臓器影響（詳細については、項目11を参照）。 長期あるいは反復ばく露による標的臓器影響（詳細については、項目11

を参照)。

応急措置を要する者の保護に必要な注意事項
適用しない。

5. 火災時の措置

消火剤

火災の場合：消火するために 粉末消火剤または炭酸ガスなどの可燃性液体および可燃性固体用消火薬剤を使用すること。

使ってはならない消火剤

情報なし。

特有の危険有害性

火災の熱で密封された容器内の圧力が増し、爆発するおそれがある。

有害な分解物または副生成物

物質

一酸化炭素

二酸化炭素

刺激性蒸気あるいはガス

条件

燃焼中

燃焼中

燃焼中

消火作業者の保護

水は消火には効果的ではないが、火炎にさらされた容器を冷却して爆発を防ぐために使用する。 ヘルメット、自給式の陽圧ないし加圧式呼吸装置、バンカーコート及びズボン、腕、腰及び脚の周りのバンド、顔面マスク、及び頭部の露出部分の保護カバーを含む完全保護衣服を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

区域から退避させること。 熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。禁煙。 火花を発生させない工具を使用すること。 新鮮な空気ですその場所を換気する。 大量に漏洩した場合、あるいは狭小な場所で漏洩した場合は、安全衛生手順にしたがって、蒸気の拡散、排出のための強制換気を行う。 警告！モーターは着火源になる。漏洩個所に発生している引火性のガスや蒸気の着火源となり、燃焼・爆発を起こす可能性がある。 物理的有害性、健康有害性、呼吸保護、換気、個人防護については本SDSの他の項目を参照。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。 大量の場合には、下水設備や水施設に流入すのを防止する為に、排水溝にカバーし、土手をつくる。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏洩箇所を泡消火薬剤で覆う。 ベントナイト、バーミキュライトあるいは市販の無機吸収剤を用い、漏洩物の周囲から内側に向けて覆う。漏洩箇所が乾燥するまで十分に吸収剤を混ぜ合わせる。 吸収剤を加えても物理的危険性や健康および環境影響に関する有害性を有することに留意する。 出来る限り多くの漏洩物を防爆仕様の道具を使って回収する。 金属製の容器に収納する。 有資格者・専門家が選択した適切な溶剤を使用して残留物を清掃する。新鮮な空気に換気する。溶剤のラベルとSDSを参照し、安全な取り扱い方法に従う。 容器を密封する。 回収した物質は、国内外の法令や規則にしたがって、できるだけ早く廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 熱／火花／裸火／高温の物体などの着火源から遠ざけること。 禁煙。 火花を発生させない工具を使用すること。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 眼、皮膚、衣類につけないこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱後はよく洗うこと。 環境への放出を避けること。 酸化剤との接触を避ける（塩素、クロム酸等）。 静電気帯電防止靴あるいは適切にアースした靴を着用する。 指定された個人保護具を使用する。 着火の危険を最小限にするために、この製品を使用する作業のために適切な電気的分類を決定し、引火性気体の蓄積を避けるために、特定の局所排気装置を選定してください。 輸送中に静電気蓄積の可能性がある場合、容器を接地し、アースを取ること。

保管

換気の良い場所で保管すること。 涼しいところに置くこと。 容器を密閉しておくこと。 熱から離して保管する。 酸から離して保管する。 酸化剤から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理項目

許容濃度及び管理濃度

セクション3に表示されている成分名が、以下の表に見当たらない場合は、当該成分についての適切な作業時の許容濃度または管理濃度がないことを示している。

成分	CAS番号	政府機関	許容濃度または管理濃度	備考
エチルベンゼン	100-41-4	ACGIH	TWA : 20 ppm	A3: 動物発がん性物質, 耳毒性物質
エチルベンゼン	100-41-4	ISHL	TLV (8時間) : 20 ppm	
エチルベンゼン	100-41-4	JSOH OELs	TWA (8時間): 87 mg/m ³ (20 ppm)	2B: ヒトに対して発がん性の可能性がある。(皮膚)
スチレンモノマー	100-42-5	ACGIH	TWA : 10 ppm, STEL : 20 ppm	A3: 動物発がん性物質, 耳毒性物質
スチレンモノマー	100-42-5	ISHL	TLV (8時間) : 20 ppm	
スチレンモノマー	100-42-5	JSOH OELs	TWA (proposed) (8時間): 42.6 mg/m ³ (10ppm)	2A: ヒトに対しておそらく発がん性がある。皮膚。
キシレン	1330-20-7	ACGIH	TWA: 20 ppm; STEL: 150 ppm	A4: ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質
キシレン	1330-20-7	ISHL	TLV (8時間) : 50 ppm	
キシレン	1330-20-7	JSOH OELs	TWA (8時間) : 217 mg/m ³ (50 ppm)	
酸化チタン(IV)	13463-67-7	ACGIH	vTWA(吸入性ナノ粒子): 0.2 mg/m ³ ; TWA(吸入性微粒子): 2.5 mg/m ³	A3: 動物発がん性物質
酸化チタン(IV)	13463-67-7	JSOH OELs	TWA (推奨) (8時間): 0.3mg/m ³	2B: ヒトに対して発がん性の可能性がある。

タルク	14807-96-6	ACGIH	TWA (吸入性分画) : 2 mg/m ³	A4 : ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質
タルク	14807-96-6	JSOH OELs	TWA (総粉じんとして) (8時間) : 2 mg/m ³ ; TWA (吸入性粉じんとして) (8時間) : 0.5 mg/m ³	

ACGIH : American Conference of Governmental Industrial Hygienists

AIHA : American Industrial Hygiene Association

ISHL : 労働安全衛生法作業環境評価基準

JSOH OELs : 日本産業衛生学会許容濃度

TWA : 時間加重平均値

STEL : 短時間ばく露限界値

ppm : 百万分率

mg/m³ : ミリグラム/立方メートル

CEIL : 天井値

ばく露防止策

設備対策

熱硬化処理を行う場合は適切な局所排気装置を使用する。切削、研削、研磨、旋削時に適切な局排換気を行う。空気中の有害物質をそれぞれの許容濃度以下に制御し、粉じん、フューム、ガス、ミスト、スプレーをコントロールするためにも、一般的な希釈換気あるいは局排換気を行う。換気が適切に実施できない場合は、呼吸保護具を使用する。防爆換気装置を使用する。

保護具

眼の保護具

ばく露評価結果に準じた眼・顔の保護具を選択・使用する。下記の眼・顔の保護具を推奨する。
間接式換気ゴーグル

皮膚及び身体の保護具

ばく露評価に準じた皮膚接触を防止するために、関連した法令で認められた保護手袋・保護衣を選択・使用する。注：保護性を高めるために樹脂ラミネートされた手袋にニトリルゴム製の手袋を重ねてもよい。
推奨される手袋の材質：樹脂ラミネート。

呼吸用保護具

ばく露評価によって保護マスクが必要と判断される場合には、適切なものを使用する。ばく露評価結果に基づいて以下のものから保護マスクを選択する：
半面形もしくは全面形のろ過材付き有機ガス用防毒マスク

特殊な利用に際して、マスクの適合性に疑問があれば、保護マスクのメーカーに相談する。

9. 物理的及び化学的性質

基本的な物理・化学的性質

外観	液体
物理的状态:	ペースト (高粘度)

色	白色
臭い	スチレン
臭いの閾値	データはない。
pH	適用しない
融点・凝固点	データはない。
沸点, 初留点及び沸騰範囲	145 - 146 °C
引火点	31 °C [試験方法: クローズドカップ法]
蒸発速度	データはない。
引火性 (固体、ガス)	適用しない
燃焼点 (下限)	0.9 容量%
燃焼点 (上限)	6.8 容量%
蒸気圧	763.9 - 889.3 Pa
蒸気密度/相対蒸気密度	> 1 [参照基準: 空気 = 1] データはない。
密度	1.4 g/cm ³ [試験条件: 20 °C]
比重	[参照基準: 水=1] 適用しない
溶解度	なし。
溶解度 (水以外)	データはない。
n-オクタノール/水分分配係数	データはない。
発火点	データはない。
分解温度	データはない。
粘度/動粘度	データはない。
揮発性有機化合物	データはない。
揮発分	データはない。
水と規制除外の溶剤を除いた揮発性有機化合物 (JIS-GHSの要求項目ではない)	データはない。

ナノパーティクル

この製品はナノパーティクルを含有しない。

10. 安定性及び反応性

反応性

この物質は、特殊条件下では薬品と反応する可能性がある。このセクションの他の項目を参照する。

化学的安定性

不安定。 空気、光、熱もしくは過酸化物は重合を促進する。

危険有害反応の可能性

有害な重合反応は起こらない。

避けるべき条件

発熱と発煙を避けるため、大量に重合する事を避ける。

熱。

火花ないし炎

混触危険物質

強酸化性物質

危険有害な分解物**物質****条件**

知見はない。

セクション 5 の燃焼中の有害な分解物を参照

11. 有害性情報

セクション 2 で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しない場合があります。 また、成分の含有量が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場合、あるいは製品全体を考慮した場合に、含有成分の毒性情報が、製品の区分、ばく露時の兆候や症状に一致しないことがあります。

毒性学的影響に関する情報**ばく露による症状**

組成の試験結果や情報より、下記の健康影響が考えられる。

吸入した場合

吸入すると有害のおそれ 気道刺激： 咳、くしゃみ、鼻水、頭痛、鼻と喉の痛みなどの症状。 硬化時に発生する蒸気は呼吸器を刺激する可能性がある。症状として咳、くしゃみ、頭痛、しわがれ声、鼻および喉の痛みが現れる。 切断、研磨、機械加工によって発生する粉じんは呼吸器系を刺激する。症状は咳、くしゃみ、鼻水、しわがれ声、喘鳴、呼吸困難、鼻と喉の痛み、吐血など。 その他、以下に記載する健康影響を発現させることがある。

皮膚に付着した場合

軽度の皮膚刺激： 局所的な発赤、腫脹、かゆみ、乾燥などの症状。

眼に入った場合

中程度の眼の刺激： 発赤、腫脹、痛み、流涙、眼のかすみなどの症状。 硬化時に放出される蒸気は眼を刺激するおそれがある。症状は発赤、浮腫、痛み、涙及び眼のくもりあるいはかすみ目。 切断、研磨又は機械加工によって発生する粉じんは眼を刺激する。症状は発赤、腫脹、痛み、催涙及び視力低下など。

飲み込んだ場合

胃腸への刺激： 腹痛、胃痛、吐き気、嘔吐、下痢などの症状。 その他、以下に記載する健康影響を発現させることがある。

その他健康影響情報**特定標的臓器毒性、単回ばく露**

聴覚への影響： 聴覚障害、平衡機能異常及び耳鳴りなどの症状。 肝臓への影響： 食欲減退、体重減少、疲労、虚弱、腹部圧痛及び黄疸などの症状。

長時間又は反復暴露した場合：

塵肺症： 持続性のせき、無呼吸、胸痛、喀痰増加、肺機能検査結果の変化などの症状。 眼に対する影響： ばやけたり、重大な視力障害などの症状。 聴覚への影響： 聴覚障害、平衡機能異常及び耳鳴りなどの症状。 肝臓への影響： 食欲減退、体重減少、疲労、虚弱、腹部圧痛及び黄疸などの症状。

発がん性

発がん性のある化学物質を、単体あるいは混合物として含有する。

毒性データ

セクション 3 に開示されている化学成分で以下に情報が無い場合は、そのエンドポイントに対して利用できるデータが無い、分類するのに十分なデータが無い場合になります。

急性毒性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
製品全体	皮膚		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
製品全体	吸入－蒸気 (4 時間)		データ無し：計算された急性毒性推定値 >20 - =50 mg/l
製品全体	経口摂取		利用できるデータが無い：ATEで計算。5,000 mg/kg
タルク	皮膚		LD50 推定値 > 5,000 mg/kg
タルク	経口摂取		LD50 推定値 > 5,000 mg/kg
スチレンモノマー	皮膚	ラット	LD50 > 2,000 mg/kg
スチレンモノマー	吸入－蒸気 (4 時間)	ラット	LC50 11.8 mg/l
スチレンモノマー	経口摂取	ラット	LD50 5,000 mg/kg
酸化チタン(IV)	皮膚	ウサギ	LD50 > 10,000 mg/kg
酸化チタン(IV)	吸入－粉塵 /ミスト (4 時間)	ラット	LC50 > 6.82 mg/l
酸化チタン(IV)	経口摂取	ラット	LD50 > 10,000 mg/kg
エチルベンゼン	皮膚	ウサギ	LD50 15,433 mg/kg
エチルベンゼン	吸入－蒸気 (4 時間)	ラット	LC50 17.4 mg/l
エチルベンゼン	経口摂取	ラット	LD50 4,769 mg/kg
キシレン	皮膚	ウサギ	LD50 > 4,200 mg/kg
キシレン	吸入－蒸気 (4 時間)	ラット	LC50 29 mg/l
キシレン	経口摂取	ラット	LD50 3,523 mg/kg

ATE=推定急性毒性

皮膚腐食性／刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
タルク	ウサギ	刺激性なし
スチレンモノマー	専門家による判断	軽度の刺激
酸化チタン(IV)	ウサギ	刺激性なし
エチルベンゼン	ウサギ	軽度の刺激
キシレン	ウサギ	軽度の刺激

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

名称	生物種	値又は判定結果
タルク	ウサギ	刺激性なし
スチレンモノマー	専門家による判断	中程度の刺激
酸化チタン(IV)	ウサギ	刺激性なし
エチルベンゼン	ウサギ	中程度の刺激

キシレン	ウサギ	軽度の刺激
------	-----	-------

呼吸器感作性または皮膚感作性

皮膚感作性

名称	生物種	値又は判定結果
スチレンモノマー	モルモット	区分に該当しない。
酸化チタン(IV)	ヒト及び動物	区分に該当しない。
エチルベンゼン	ヒト	区分に該当しない。

呼吸器感作性

名称	生物種	値又は判定結果
タルク	ヒト	区分に該当しない。

生殖細胞変異原性

名称	経路	値又は判定結果
タルク	In vitro	変異原性なし
タルク	In vivo	変異原性なし
スチレンモノマー	In vitro	陽性データはあるが、分類には不十分。
スチレンモノマー	In vivo	陽性データはあるが、分類には不十分。
酸化チタン(IV)	In vitro	変異原性なし
酸化チタン(IV)	In vivo	変異原性なし
エチルベンゼン	In vivo	変異原性なし
エチルベンゼン	In vitro	陽性データはあるが、分類には不十分。
キシレン	In vitro	変異原性なし
キシレン	In vivo	変異原性なし

発がん性

名称	経路	生物種	値又は判定結果
タルク	吸入した場合	ラット	陽性データはあるが、分類には不十分。
スチレンモノマー	経口摂取	マウス	発がん性
スチレンモノマー	吸入した場合	ヒト及び動物	発がん性
酸化チタン(IV)	経口摂取	多種類の動物種	発がん性なし
酸化チタン(IV)	吸入した場合	ラット	発がん性
エチルベンゼン	吸入した場合	多種類の動物種	発がん性
キシレン	皮膚	ラット	発がん性なし
キシレン	経口摂取	多種類の動物種	発がん性なし
キシレン	吸入した場合	ヒト	陽性データはあるが、分類には不十分。

生殖毒性

生殖発生影響

名称	経路	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
タルク	経口摂取	発生毒性区分に該当しない。	ラット	NOAEL 1,600 mg/kg	器官発生期
スチレンモノマー	経口摂取	雌について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 21 mg/kg/日	3 世代
スチレンモノマー	吸入した場合	雌について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 2.1 mg/l	2 世代
スチレンモノマー	吸入した場合	雄について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 2.1 mg/l	2 世代
スチレンモノマー	経口摂取	雄について生殖毒性は区分に該当しない。	ラット	NOAEL 400 mg/kg/日	60 日
スチレンモノマー	経口摂取	発生毒性区分に該当しない。	ラット	NOAEL 400 mg/kg/日	妊娠期間中
スチレンモノマー	吸入した場合	発生毒性区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 2.1 mg/l	妊娠期間中
エチルベンゼン	吸入した場合	発生毒性区分に該当しない。	ラット	NOAEL 4.3 mg/l	交配前および妊娠中。
キシレン	吸入した場合	雌について生殖毒性は区分に該当しない。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
キシレン	経口摂取	発生毒性区分に該当しない。	マウス	NOAEL 非該当	器官発生期
キシレン	吸入した場合	発生毒性区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 非該当	妊娠期間中

授乳に対するまたは授乳を介した影響

名称	経路	生物種	値又は判定結果
キシレン	経口摂取	マウス	乳汁を介した影響および授乳による影響区分に該当しない。

標的臓器

特定標的臓器毒性、単回ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
スチレンモノマー	吸入した場合	聴覚系	臓器への影響	多種類の動物種	LOAEL 4.3 mg/l	非該当
スチレンモノマー	吸入した場合	肝臓	臓器への影響	マウス	LOAEL 2.1 mg/l	非該当
スチレンモノマー	吸入した場合	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
スチレンモノマー	吸入した場合	呼吸器への刺激	呼吸器への刺激のおそれ。	ヒト及び動物	NOAEL 非該当	
スチレンモノマー	吸入した場合	内分泌系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 非該当	非該当
スチレンモノマー	吸入した場合	腎臓および膀胱	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 2.1 mg/l	非該当
エチルベンゼン	吸入した場合	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	ヒト	NOAEL 非該当	
エチルベンゼン	吸入した場合	呼吸器への刺激	陽性データはあるが、分類には不十分。	ヒト及び動物	NOAEL 非該当	
エチルベンゼン	経口摂取	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	専門家による判断	NOAEL 非該当	
キシレン	吸入した場合	聴覚系	臓器への影響	ラット	LOAEL 6.3	8 時間

	場合				mg/l	
キシレン	吸入した場合	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	ヒト	NOAEL 非該当	
キシレン	吸入した場合	呼吸器への刺激	陽性データはあるが、分類には不十分。	ヒト	NOAEL 非該当	
キシレン	吸入した場合	眼	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 3.5 mg/l	非該当
キシレン	吸入した場合	肝臓	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 非該当	
キシレン	経口摂取	中枢神経系の抑制	眠気又はめまいのおそれ。	多種類の動物種	NOAEL 非該当	
キシレン	経口摂取	眼	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 250 mg/kg	適用しない。

特定標的臓器毒性、反復ばく露

名称	経路	標的臓器	値又は判定結果	生物種	試験結果	ばく露期間
タルク	吸入した場合	塵肺症	長期あるいは反復ばく露により組織に悪影響を及ぼす。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
タルク	吸入した場合	肺線維症 呼吸器系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 18 mg/m3	113 週
スチレンモノマー	吸入した場合	聴覚系 眼	長期あるいは反復ばく露により組織に悪影響を及ぼす。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
スチレンモノマー	吸入した場合	肝臓	長期ばく露又は反復ばく露による臓器障害のおそれ	マウス	LOAEL 0.85 mg/l	13 週
スチレンモノマー	吸入した場合	神経系	陽性データはあるが、分類には不十分。	多種類の動物種	LOAEL 1.1 mg/l	非該当
スチレンモノマー	吸入した場合	造血器系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 0.85 mg/l	7 日
スチレンモノマー	吸入した場合	内分泌系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 0.6 mg/l	10 日
スチレンモノマー	吸入した場合	呼吸器系	区分に該当しない。	多種類の動物種	LOAEL 0.09 mg/l	非該当
スチレンモノマー	吸入した場合	心臓 消化管 骨、歯、爪及び/又は毛髪 筋肉 腎臓および膀胱	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 4.3 mg/l	2 年
スチレンモノマー	経口摂取	神経系	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	LOAEL 500 mg/kg/day	8 週
スチレンモノマー	経口摂取	免疫システム	陽性データはあるが、分類には不十分。	多種類の動物種	NOAEL 非該当	非該当
スチレンモノマー	経口摂取	肝臓 腎臓および膀胱	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 677 mg/kg/day	6 月
スチレンモノマー	経口摂取	造血器系	区分に該当しない。	イヌ	NOAEL 600 mg/kg/day	470 日
スチレンモノマー	経口摂取	心臓 呼吸器系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 35 mg/kg/day	105 週
酸化チタン(IV)	吸入した場合	呼吸器系	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	LOAEL 0.01 mg/l	2 年
酸化チタン(IV)	吸入した場合	肺線維症	区分に該当しない。	ヒト	NOAEL 非該当	職業性被ばく
エチルベンゼン	吸入した場合	腎臓および膀胱	陽性データはあるが、分類には不十分。	ラット	NOAEL 1.1 mg/l	2 年
エチルベンゼン	吸入した場合	肝臓	陽性データはあるが、分類には不十分。	マウス	NOAEL 1.1 mg/l	103 週

エチルベンゼン	吸入した場合	造血器系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 3.4 mg/l	28 日
エチルベンゼン	吸入した場合	聴覚系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 2.4 mg/l	5 日
エチルベンゼン	吸入した場合	内分泌系	区分に該当しない。	マウス	NOAEL 3.3 mg/l	103 週
エチルベンゼン	吸入した場合	消化管	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 3.3 mg/l	2 年
エチルベンゼン	吸入した場合	骨、歯、爪及び/ 又は毛髪 筋肉	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 4.2 mg/l	90 日
エチルベンゼン	吸入した場合	心臓 免疫システム 呼吸器系	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 3.3 mg/l	2 年
エチルベンゼン	経口摂取	肝臓 腎臓および膀胱	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 680 mg/kg/day	6 月
キシレン	吸入した場合	神経系	長期あるいは反復ばく露により組織に悪影響を及ぼす。	ラット	LOAEL 0.4 mg/l	4 週
キシレン	吸入した場合	聴覚系	長期ばく露又は反復ばく露による臓器障害のおそれ	ラット	LOAEL 7.8 mg/l	5 日
キシレン	吸入した場合	肝臓	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 非該当	
キシレン	吸入した場合	心臓 内分泌系 消化管 造血器系 筋肉 腎臓および膀胱 呼吸器系	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 3.5 mg/l	13 週
キシレン	経口摂取	聴覚系	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 900 mg/kg/day	2 週
キシレン	経口摂取	腎臓および膀胱	区分に該当しない。	ラット	NOAEL 1,500 mg/kg/day	90 日
キシレン	経口摂取	肝臓	区分に該当しない。	多種類の動物種	NOAEL 非該当	
キシレン	経口摂取	心臓 皮膚 内分泌系 骨、歯、爪及び/又は毛髪 造血器系 免疫システム 神経系 呼吸器系	区分に該当しない。	マウス	NOAEL 1,000 mg/kg/day	103 週

誤えん有害性

名称	値又は判定結果
スチレンモノマー	誤えん有害性
エチルベンゼン	誤えん有害性
キシレン	誤えん有害性

製品及び成分に関する追加の毒性情報が必要な場合には、本SDSの1ページに記載した住所、電話番号にご連絡ください。

12. 環境影響情報

セクション2で区分表示が義務付けられている特殊な成分を含有する場合には、下記の情報と一致しないことがあります。セクション2の分類に関する追加情報が必要な場合は、弊社にお問い合わせください。また、成分の環境中での運命及び有害性は、成分の含有が表示義務となる値以下の場合、成分のばく露が予想されない場

合、あるいは製品全体を考慮した場合に、この項の内容と一致しないことがあります。

生態毒性

水生環境有害性 短期（急性）

GHS 水生環境有害性（急性）区分 3：水生生物に有害。

水生環境有害性 長期（慢性）

GHS 分類では水生生物への慢性毒性はない。

製品での試験データは無い。

材料	CAS番号	生物種	種類	ばく露	テストエンドポイント	試験結果
タルク	14807-96-6	該当なし	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし
エチルベンゼン	100-41-4	液状化	実験	49 時間	EC50	130 mg/l
エチルベンゼン	100-41-4	大西洋トウゴロイワシ	実験	96 時間	LC50	5.1 mg/l
エチルベンゼン	100-41-4	緑藻類	実験	96 時間	EC50	3.6 mg/l
エチルベンゼン	100-41-4	アミ	実験	96 時間	LC50	2.6 mg/l
エチルベンゼン	100-41-4	ニジマス	実験	96 時間	LC50	4.2 mg/l
エチルベンゼン	100-41-4	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	1.8 mg/l
エチルベンゼン	100-41-4	ミジンコ	実験	7 日	NOEC	0.96 mg/l
スチレンモノマー	100-42-5	液状化	実験	30 分	EC50	500 mg/l
スチレンモノマー	100-42-5	ファットヘッドミノウ（魚）	実験	96 時間	LC50	4.02 mg/l
スチレンモノマー	100-42-5	緑藻類	実験	72 時間	EC50	4.9 mg/l
スチレンモノマー	100-42-5	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	4.7 mg/l
スチレンモノマー	100-42-5	緑藻類	実験	96 時間	EC10	0.28 mg/l
スチレンモノマー	100-42-5	ミジンコ	実験	21 日	NOEC	1.01 mg/l
酸化チタン (IV)	13463-67-7	液状化	実験	3 時間	NOEC	>=1,000 mg/l
酸化チタン	13463-67-7	珪藻	実験	72 時間	EC50	>10,000 mg/l

(IV)						
酸化チタン (IV)	13463-67-7	ファットヘッド ドミノウ (魚)	実験	96 時間	LC50	>100 mg/l
酸化チタン (IV)	13463-67-7	ミジンコ	実験	48 時間	EC50	>100 mg/l
酸化チタン (IV)	13463-67-7	珪藻	実験	72 時間	NOEC	5,600 mg/l
キシレン	1330-20-7	液状化	推定値	3 時間	NOEC	157 mg/l
キシレン	1330-20-7	緑藻類	推定値	72 時間	EC50	4.36 mg/l
キシレン	1330-20-7	ニジマス	推定値	96 時間	LC50	2.6 mg/l
キシレン	1330-20-7	ミジンコ	推定値	48 時間	EC50	3.82 mg/l
キシレン	1330-20-7	緑藻類	推定値	72 時間	NOEC	0.44 mg/l
キシレン	1330-20-7	ミジンコ	推定値	7 日	NOEC	0.96 mg/l
キシレン	1330-20-7	ニジマス	実験	56 日	NOEC	>1.3 mg/l

残留性・分解性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
タルク	14807-96-6	データ不足	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
エチルベンゼン	100-41-4	実験 生分解性	28 日	二酸化炭素の発生	70-80 CO2発生量/理論CO2発生量%	ISO 14593 生分解性試験法 (ヘッドスペースCO2試験)
エチルベンゼン	100-41-4	実験 光分解		光分解半減期 (空气中)	4.26 日 (t 1/2)	
スチレンモノマー	100-42-5	実験 生分解性	28 日	生物学的酸素要求量	70.9 %BOD/ThOD	
スチレンモノマー	100-42-5	実験 光分解		光分解半減期 (空气中)	6.64 時間 (t 1/2)	
酸化チタン (IV)	13463-67-7	データ不足	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
キシレン	1330-20-7	実験 生分解性	28 日	生物学的酸素要求量	90-98 %BOD/ThOD	OECD 301F
キシレン	1330-20-7	実験 光分解		光分解半減期 (空气中)	1.4 日 (t 1/2)	

生体蓄積性

材料	CAS番号	試験の種類	期間	試験の種類	試験結果	プロトコル
タルク	14807-96-6	分類にデータが利用できない、あるいは不足している。	該当なし	該当なし	該当なし	該当なし
エチルベンゼン	100-41-4	実験 BCF - 魚	42 日	生物濃縮係数	1	
スチレンモノマー	100-42-5	実験 生態濃縮		オクタノール/水 分配係	2.96	

				数		
酸化チタン (IV)	13463-67-7	実験 BCF - 魚	42 日	生物濃縮係数	9.6	
キシレン	1330-20-7	実験 BCF - 魚	56 日	生物濃縮係数	25.9	

土壌中の移動性
データはない。

オゾン層への有害性
データはない。

13. 廃棄上の注意

廃棄方法
関係法令に従って、産業廃棄物として自社で処分するか産業廃棄物処理業者に委託して処分する。

14. 輸送上の注意

国連番号及び品名： 1 9 9 3 その他の引火性液体

輸送分類（IMO）：3 引火性液体

輸送分類（IATA）：3 引火性液体

容器等級：III

国内規制がある場合の規制情報
取り扱い及び保管上の注意の項の記載による他、消防法などの法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

国内法規制及び関連情報

日本国内法規制（主な適用法令）

労働安全衛生法：危険性又は有害性等を調査（リスクアセスメント）すべき物（法第 57 条の 3）
労働安全衛生法：施行令 1 8 条の 2 名称等を通知すべき有害物
労働安全衛生法：施行令 1 8 条有害物質（表示物質）
労働安全衛生法：施行令別表第三第二項 特化則第二類物質
化管法：第 1 種指定化学物質
船舶安全法、航空法：引火性液体類
消防法：第二類引火性固体

主な法規制物質

労働安全衛生法：通知・リスクアセスメント・表示義務対象物質

成分	法律又は政令名称	2024年3月31日まで	2024年4月1日以降
----	----------	--------------	-------------

エチルベンゼン	エチルベンゼン	該当	該当
スチレンモノマー	スチレン	該当	該当
酸化チタン(IV)	酸化チタン(IV)	該当	該当
キシレン	キシレン	該当	該当

化管法

成分	政令名称	管理番号	区分
スチレンモノマー	スチレン	240	第1種指定化学物質

16. その他の情報

改訂情報

セクション1：製品用途 情報の追加.
 セクション2：注意書き - 応急措置 情報修正.
 セクション2：ラベル要素の追加GHS情報 情報修正.
 セクション3：成分表 情報修正.
 セクション5：火災時情報（消火剤） 情報修正.
 セクション8：mg/m³ 記号 情報の追加.
 セクション8：作業環境許容値 情報修正.
 セクション8：保護具 - 眼 情報修正.
 セクション8：ppm 記号 情報の追加.
 セクション8：呼吸器保護 - 推奨する呼吸保護具の情報 情報修正.
 セクション9：燃焼性（固体、ガス）情報 情報修正.
 セクション9：pH情報 情報修正.
 セクション9：比重情報 情報修正.
 セクション10：燃焼中の有害な分解物 情報の追加.
 セクション11：急性毒性の表 情報修正.
 セクション11：吸引毒性の表 情報修正.
 セクション11：発がん性の表 情報修正.
 セクション11：生殖細胞変異原性の表 情報修正.
 セクション11：授乳影響の表 情報修正.
 セクション11：生殖毒性の表 情報修正.
 セクション11：重篤な眼へのダメージ/刺激の表 情報修正.
 セクション11：皮膚腐食性/刺激性の表 情報修正.
 セクション11：皮膚感作性の表 情報修正.
 セクション11：標的臓器 - 反復ばく露の表 情報修正.
 セクション12：成分生態毒性情報 情報修正.
 セクション12：残留性および分解性の情報 情報修正.
 セクション12：生態濃縮性情報 情報修正.
 セクション15：労働安全衛生法の表 情報の追加.
 セクション15：法規名 - 表 情報の削除.
 セクション15：化管法の表 情報の追加.
 セクション15：適用法規のステートメント 情報修正.

免責事項：この安全データシート（SDS）の情報は、発行時における当社の知見に基づき正確であると考えていますが、当社は、その使用から生じる損失、損害または傷害に関する賠償責任を引き受けるものではありません。
 （法令で要求される場合を除く）本SDSの記載内容は、記載されている範囲外の使用、あるいは他の物質と組み合

わせての使用では効力を持ちません。これらの理由から、お客様がご自身の用途に製品が適合しているかどうかをご自身で評価することが重要です。加えて、本安全データシートは安全衛生情報もお伝えしております。日本国へ本製品を輸入されるお客様は、製品の登録・届出、物質量の監視、想定される物質の登録・届出を含む（これらに限定されるものではありません）適用される全ての法的要求について責任を負います。

3MジャパングループのSDSは日本のウェブサイトから入手できます。